



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校

新聞部
彦根市金亀町4番7号

緊急事態宣言がもたらした変化

図書館の今を知る



▲飛沫防止のための仕切りが設置されているスペース

2021年度 貸出冊数

4月	606冊
5月	426冊
6月	349冊
7月	525冊
8月	66冊
9月	394冊
合計	2364冊

8月27日から9月30日までの35日間、滋賀県では緊急事態宣言が発令された。緊急事態宣言期間中はさまざまな制限が課され、本校の図書館も影響を受けた。この状況下でも図書館を開き続けるための取り組みについて、千木良先生にお話を伺った。

図書館で行っている新型コロナウイルス感染症（以下新型コロナ）対策について千木良先生は「図書館の入り口に消毒液を、机に飛沫防止のために仕切りを設置している。さらに4人で使用する机を2人で互い違いに座って使用するように張り紙などで呼びかけている。図書館は教室と比べて席と席の間隔が狭く、不特定多数の人が来るので感染対策を徹底しなければならぬ」と語られた。

また緊急事態宣言期間中の生徒の図書館の利用状況について千木良先生は「図書館に来る生徒の数は確かに減っていたが、以前から定期的に図書館を利用していた生徒は変わらず来ていたように思う」と話された。



▲図書館前に設置されている消毒液

「図書館貸出券や図書館だよりに記載しているQRコードをぜひ利用してほしい。図書館に行かずに図書館にある本がわかるうえに、自分の借りたい本を検索したり、新着図書を確認したりすることができる。普段読まない本への入り口になるだろう」と説明された。

加えて千木良先生は本校生徒に向けて「緊急事態宣言が解除された今でも、安心して生徒に図書館を利用してもらえるように新型コロナ対策は徹底して行っている。図書館で本を借りるのも、読むのも、自習をするのも、調べ物をするのも個人の自由だ。図書館を最大限に利用して学校生活を送ってほしい」とメッセージを送られた。